

都市再生整備計画 事後評価シート
皿倉・河内地区

平成23年3月

福岡県北九州市

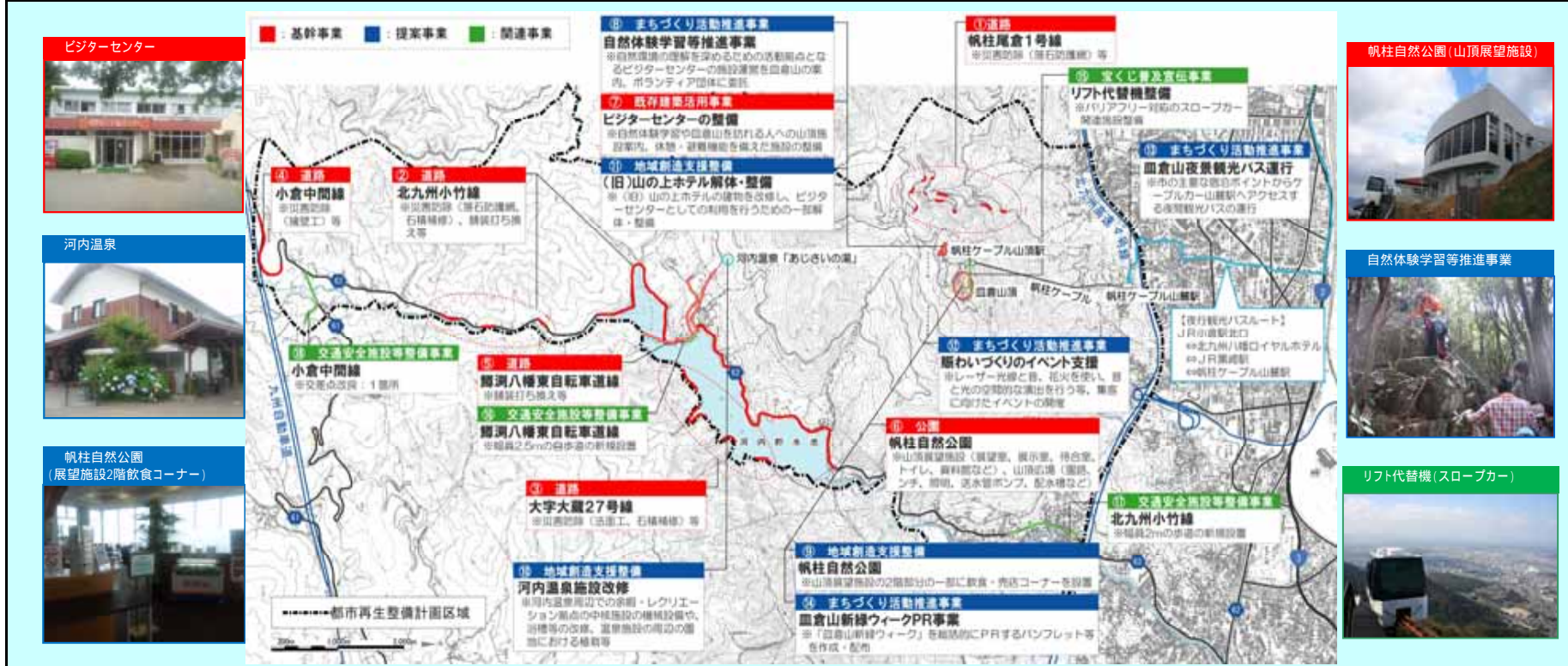
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	北九州市		地区名	血倉・河内地区			面積	950ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1,041.7	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		事業名 道路(帆柱尾倉1号線、北九州小竹線、大字大蔵27号線、小倉中間線、鱈淵八幡東自転車道線)、公園(帆柱自然公園)、既存建造物活用事業(ビジターセンターの整備)								
	当初計画から削除した事業		提案事業		削除/追加の理由 ・基幹事業の地域生活基盤施設事業から関連事業の宝くじ普及宣伝事業へ変更したため削除。 ・交付対象期間内の事業完了が見込めないため、交付対象事業から削除。								
	新たに追加した事業		基幹事業		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 期待される効果は変わらないことから指標及び数値目標は据え置く 観光振興に関連するが、その期待される効果への影響は少ないことから指標及び数値目標は据え置く								
	新たに追加した事業		提案事業		・展望施設の2階部分と飲食コーナーを整備する必要が生じたため追加 ・福岡県公衆浴場法施行条例の改正に伴い、施設の改良を行う必要が生じたため追加 ・夜間観光の推進を通じた宿泊客の増加と血倉山への誘客を図るため追加 ・イベントを総合的にPRする必要が生じたため追加 目標指標に関係するが、影響は少ないため目標・指標は据え置く								
	交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
	指標1	観光入込客数	万人/年	55.2	H16	70.0	H22	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標2	宿泊観光客数	万人/年	3.8	H16	5.0	H22		2.8	×	あり	施設整備、イベント開催、温泉施設のリニューアル等を行い、観光客が増えたが、景気の低迷等の影響により、観光入込客数は目標値を達成できなかった。	H23年8月
	指標3	観光消費額	億円/年	29	H16	37	H22		21	あり	あり	従前値以前の減少傾向とそれ以後を比較すると評価値が上回っており効果はあったが、景気低迷等の社会的要因で、目標値は達成できなかった。	H23年8月
	指標4	血倉山頂でのイベント集客数	千人/年	37	H16	44	H22		45	あり	あり	スロープカーの設置や山頂の拠点施設、ビジターセンターの新設、観光バスの運行などによる血倉山でのイベント開催環境を整備したことにより、目標値を達成した。	H23年4月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
	その他の数値指標1	ケーブル乗客数	千人/年	160	H17			モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標2	ビジターセンター入場者数	千人/年	18	H18				28			登山ルートや山頂の拠点施設、ビジターセンターの整備等による血倉山の利用環境整備や、イベントやPR、夜間観光バスの運行によるアクセス性の向上などにより増加。	H23年4月
	その他の数値指標3	団体利用者数	人/年	1,494	H17				4,866			山頂の拠点施設やビジターセンターの整備により、団体の利用における魅力が高まったほか、誰でも安全に利用できるスロープカーが整備されたことで増加。	H23年4月
	その他の数値指標4	ボランティア活動参加者数	人/年	847	H17				1,515			ビジターセンターの整備や市民団体主催のイベントなどを通してボランティア活動への関心が向上することにより増加。	H23年6月
4)定性的な効果発現状況	血倉山山頂の整備やスロープカーの整備で、身体的な制限等に関係なく、山頂に登る際に安全かつ安心して山頂を利用できるようになり、血倉山の自然を活かしたイベントとして「さらくら森のがっこう」「血倉観望台」が平成20年度より毎月定期的に企画・開催されるようになった。												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載し、実施できた										
	住民参加プロセス	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 都市再生整備計画に記載し、実施できた										
	持続的なまちづくり体制の構築	ビジターセンターの運営におけるNPO組織の強化	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後もNPOを中心とした運営を継続する。						
	定期的なイベントの開催体制の構築	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も帆柱ケーブル株式会社を中心としたイベントの開催を行う。							

様式2 - 2 地区の概要

血倉・河内地区 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 都市部に隣接する血倉・河内地区の豊かな自然環境資源の活用により、観光振興を促進するとともに市街地と連携した賑わいづくりを進め、都市の活性化を推進する。		観光入込客数	単位: 万人/年	55.2	H16	70.0	H22	39.4	H22
目標1: 市民が気軽に立ち寄れるレクリエーションエリアとして、地域住民の生活の質の向上と心身の健康づくりの場を創出する。		宿泊観光客数	単位: 万人/年	3.8	H16	5.0	H22	2.8	H22
目標2: 緑豊かな湖水景観や山頂からの眺望や夜景など、自然環境資源を観光振興ツールとして活用し地域経済の活性化を図る。		観光消費額	単位: 億円/年	29	H16	37	H22	21	H22
目標3: 血倉・河内地区を観光拠点として創出するため、地区内施設の一層の利用促進に向け交通アクセスの充実や回遊性の向上により滞在時間の長時間化を図る。		血倉山頂でのイベント集客数	単位: 千人/年	37	H16	44	H22	45	H22
目標4: 地域住民や民間ボランティア団体との連携を強化し、地域資源を有効活用しながら思いやりのある観光地づくりを推進する。									



まちの課題の変化

血倉山の各種施設整備や周辺道路の整備により、誰もが安全で安心して利用できる環境が整ったことから、ケーブルカーやビジターセンターを利用する個人、団体が増えたほか、各種イベントに参加する人も増え、市民の生活の質の向上と健康づくりに資するレクリエーションエリアが形成された。

血倉山頂展望台やビジターセンターの整備により観光地としての魅力が向上し、ケーブルカーや山頂施設の利用者の増加や長時間滞在が可能になったが、今後も利用者増加や長時間滞在に繋がるイベントの企画を進める。

周辺道路や登山ルート、スロープカーの整備により、アクセシビリティが向上したが、今後は登山観光客を誘致するため登山道整備や案内看板の設置を行い、さらにニーズを受けたイベントの企画検討を進める。

ビジターセンターの整備や市民が中心となったイベントの開催により、たれでも利用しやすい観光地が生まれ、ボランティア活動への関心が高まり、参加者数も増加したが、今後は他のイベントの参加者にもボランティア情報の提供を行い、徐々にその輪を広げる。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

効果を持続させるために行う方策

レクリエーション環境の充実: 血倉山や河内温泉等の拠点を中心に、レクリエーション活動がより活発化するために、既存施設の充実や維持更新を進めていく。

市民主体の地域活動の推進: ビジターセンターでの市民団体の活動支援やイベントと一体となったボランティア活動、小・中学校での野外学習などを実施し、子供たちの情操教育や市民が自然と親しむ機会を増やす。

地区の自然を生かした取り組み: 血倉山を拠点に、年間を通して自然を楽しむような様々なイベントを開催する。

改善策

血倉山の自然を楽しむための環境づくり: 血倉山の自然の魅力を体験してもらうため、登山道の整備や案内看板の設置など、アウトドア目的の来訪者の利用環境を向上させる。

交通アクセスの整備促進: 血倉・河内地区の施設整備は整いつつあり、地区内へのアクセス向上や道路サインの整備を進めていく。

効果的な広報PRの仕組みづくり: 血倉山や河内温泉などの自然の魅力や情報を効果的に市民に発信するための広報手法を検討する。

来訪者の周遊や滞在時間の延長を促す仕組みづくり: 地区内での登山やキャンプなどのアウトドアでの滞在、河内温泉と血倉山の観光ルートづくりなど、地区内の周遊や滞在時間の延長を検討する。